

2016年度ろう者ゲスト特別講演

はらちの道

講師 原 千佳子 さん

特定非営利活動法人つくし 聴覚・ろう重複センターおれんじ
管理者兼サービス提供責任者

日時：2016年12月19日（月）14:30～16:00
愛知県立大学長久手キャンパス講堂（L棟）

本講演は日本手話で行われます。

手話を理解しない方のために、音声日本語への通訳があります。

参加無料、申込不要。どなたでも自由におこしてください。

講師のはらち（原千佳子）さんが見てきたこと、学んだこと、感じたことを、ろう世界、聴者世界、オーストラリア、ろう福祉などの多面的な切り口から、縦横に手話で語ります。

手話による講演を通じて、世界の多文化社会を学びとぐちとしましょう。

講師紹介 はら・ちかこ

名古屋市生まれ、育ち。聾学校中学部卒業、同朋高校・日本福祉大学へ進学。大学在学中に初めてオーストラリアへボランティア留学。それをきっかけにオーストラリアに興味をもつ。東海医療福祉専門学校を卒業後、聴覚・ろう重複センター碧で3年間、勤務。退職後、ワーキングホリデーでオーストラリアに渡る。約2年半、オーストラリアに暮らしながらオーストラリア手話や異文化などを学んだ。帰国後、聴覚・ろう重複センターおれんじに勤務。



主催：愛知県立大学多文化共生研究所
共催：同地域連携センター／後援：同教養教育センター
といあわせ：愛知県立大学国際関係学科かめい研究室

愛知県立大学多文化共生研究所主催 「ろう者ゲスト特別講演 はらちの道」開催報告

愛知県立大学外国語学部国際関係学科
亀井伸孝

恒例となつたろう者ゲスト講演

本学では、2011年よりほぼ毎年、地域に根差した多文化共生の理念をキャンパス内で共有することを目的とし、ろう者のゲストを招いた講演会を実施している。手話が自然言語であることを体験を通じて学ぶこと、遠い外国の異文化のみに関心を寄せるのではなく、身近な異文化としてのろう者の文化に触れること、手話通訳者を通じて講演を聞く姿勢を育むことなどをねらいとしている。今年度は、名古屋市出身のろう者である原千佳子さんを招聘して、講堂での講演の機会をもつことができた(写真1、2)。

開催概要(講師、日時、場所、講演言語、主催、共催などは、別添のチラシを参照ください)

参加者数：169名(手話による講演であったため、ろう者の市民の一般参加が2名あった)

参加授業：教養科目「多文化社会とコミュニケーション」(2016年度後期、担当：亀井伸孝[国際関係学科])が授業として合流。他にも、複数の授業の振り替えで学生の参加を奨励した教員がいた。

講演と質疑応答の内容

前半では、講師の生い立ちを中心に、幼少期から受けてきた教育や交友関係の話題が、豊富な写真とともに紹介された。愛知県内のろう学校と普通学校の両方の学習環境を体験した講師が、それらの違いや、途中で普通学校への進学を選択した当時の思い、家族との関わりなどを語った。

また、後半では、ワーキングホリデーでオーストラリアに渡り、約2年半にわたって現地で暮らしながらオーストラリア手話や異文化などを学んだことが、豊かな経験談とともに紹介された。

講演後には、フロアの学生から積極的な質問が相次いだ。質疑応答を通じ、聞こえないこと、手話話者であること、ろう者の文化と価値観とともに生きること、海外体験などについての興味深い話題が登場した。オーストラリア手話の経験のあるろう者が一般参加していたため、講師の呼びかけに応じて彼も舞台上上がり、2人でオーストラリア手話のあいさつを実演する興味深いシーンもあった(写真3)。

講演や司会進行はすべて日本手話で行われ、2名の手話通訳者によって音声日本語へと通訳された。

成果と展望

学内で初めて手話に接した学生も多く、有意義な学びのひと時となった。また、世界の手話は共通でないということ、知識としてのみならず、オーストラリア手話の実例で学ぶことができた。今後とも、地域に根差した多文化共生の理念を実現する大学として、さらなる交流の取り組みが期待される。

写真1:原千佳子講師



写真2:講堂で開催



写真3:オーストラリア手話の会話実演



(写真はいずれも、2016年12月19日、愛知県立大学長久手キャンパス講堂にて、筆者撮影)